「Kita Alps Traverse Route」ならではの

体験ストーリー集

―白骨温泉エリア編―

2025 年 3 月

中部山岳国立公園管理事務所

目次

Ⅰ．「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集の使い方 …… 1

Ⅱ．白骨温泉の望ましい体験 …… 4

Ⅲ．白骨温泉ならではの体験ストーリー …… 5

１．白骨温泉ならではの価値・魅力１「長い歴史・文化を持つ白い湯の湯治場」 …… 6

白骨温泉の開湯の起源は定かではないが、鎌倉時代には既に湧出していたと伝わっており、600年以上の歴史を持つと言われている。北陸から向かった武士や旅人、農閑期の百姓、保養に来た文人墨客、修験者、登山客など、その白い湯が何百年にもわたって人々を癒し、清め続けてきた。科学的にも裏付けられた消化器官系への効果は、「入って良し、飲んで良し」の湯治場として栄えてきた白骨が　、長く愛されてきた温泉の質を証明している。

２．白骨温泉ならではの価値・魅力２
「石灰岩地が生み出した白骨温泉特有の白い湯と特異な環境」 …… 12

標高 1,400m にある山奥の秘湯白骨温泉は、何よりもその白い湯が特徴的である。この白い湯は、２億年をかけて熱帯から動いてきたサンゴ礁（石灰岩）が関係しており、石灰岩の成分である炭酸カルシウム（石灰華）に由来する。

石灰岩地の上に立つ白骨温泉一帯には、その特異な環境から、特別天然記念物「白骨温泉の噴湯丘と球状石灰石」の指定や希少な植物も生育している。

３．白骨温泉ならではの価値・魅力３「秘湯の温泉街の雰囲気作り」 …… 17

600 年以上も前から人々を癒してきた歴史ある白骨温泉。今日の”秘湯”の雰囲気作りには、インフラ整備から経営まで、地域の苦労と思いが積み重なっている。長い歴史と白骨温泉の魅力を後世に残すため、現在も地域による温泉街づくりは続いている。

はじめに

令和３（2021）年から中部山岳国立公園南部地域を中心に、松本市街地と高山市街地をつなぐ行政区分にとらわれない横断的な地域を一つの観光圏として捉え、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光地へと磨き上げていく「松本高山 Big Bridge 構想」実現プロジェクトを進めています。利用と保全の好循環による持続的な観光として構想を実現するための総合循環型観光圏を「Kita Alps Traverse Route」と名付け、一体的な旅づくりとプロモーションの取組を進めているところです。

「Kita Alps Traverse Route」には、構成する地域ごとに自然・文化等の特徴的な魅力があります。こうした特徴的な魅力が、この観光圏の来訪者へ、この地域ならではの体験として提供されることで、魅力が価値として伝わり、来訪者とこの土地に特別なつながりが生まれ（満足度が向上しファンが拡大し）、この地に訪れる価値・滞在価値がさらに向上し（地域のブランド化が進み）、選ばれる観光圏が確立され、社会の充実や自然・文化等地域資源の保全につながる総合循環型観光圏の実現に至ると考えています。

本冊子『「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集』‐白骨温泉エリア編‐は、「Kita Alps Traverse Route」の白骨温泉エリアの特徴的な自然・文化とそこで得られる体験を選び出し、その資源や体験の持つ魅力を価値として来訪者に「わかりやすく」、「共感できる形で」伝えられるよう、短いストーリーと解説をつけてカード形式で整理をしたストーリー集です。

来訪者がこのエリアで滞在する中で、宿やお店、バスの乗り換え場所、ビジターセンター・案内所、歩道や展望地などで、多岐にわたる利用サービスが提供されます。本冊子が、このエリアで利用サービスを提供するすべての関係者による、このエリアならではの旅づくりと旅の提供につながり、来訪者とこのエリアとの特別なつながりを強くしていくことに活用されることを期待しています。

Ⅰ.「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集の使い方

「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集（以下「ストーリー集」）は、中部山岳国立公園南部地域の８つのエリア（上高地、山岳エリア、乗鞍高原、乗鞍岳、白骨温泉、新穂高温泉、平湯温泉、沢渡）ごとに特徴的な自然・文化とそこで得られる体験を選び出し、その資源や体験の持つ魅力を価値として来訪者に伝わりやすく短いストーリーと解説をつけてカード形式で整理をしたものです。

来訪者の方々に「Kita Alps Traverse Route」の価値に触れ、内面の変化を得てもらうことを目指し、ガイド事業者や旅行会社の方、各拠点の拠点施設や宿泊施設、飲食店、土産物店等でお客様と直接接する方、メディアの方等に活用いただくことを想定しています。

なお、本ストーリー集は、令和６年度時点に収取した情報をもとにまとめたもので、今後、内容面のさらなる充実、ターゲットやテーマに応じた磨き上げなど、計画策定後も活用をとおしてブラッシュアップを重ねていければと考えています。皆様も活用を通じてお気づきのことがあれば、ぜひ環境省中部山岳国立公園管理事務所までご意見をお寄せください。また、他のエリアのストーリー集をご覧になりたい場合も環境省中部山岳国立公園管理事務所までご連絡ください。

＜ストーリー集の活用イメージ＞

○ガイド事業者、旅行会社の方　地域の価値を伝える

・本ストーリー集を参考に、これまで以上に「ここでしかできない体験」を提供するプログラム・ツアーを造成する。

・本ストーリー集掲載のカードを使って、ツアーの最後にツアー中に触れられなかった価値についても情報提供する、あるいは同じエリアの別のテーマを取り上げたツアー商品等を紹介することで、来訪者に次回訪問のきっかけを与える。

○観光協会やビジターセンター等の拠点施設でお客様と接する方　地域の価値を伝える

・本ストーリー集を参考に、これまで以上に「ここでしかできない体験」を意識して、来訪者に対して情報提供を行う。

・中部山岳国立公園南部地域内の拠点間の違いとつながりを説明することで、来訪者に対して「Kita Alps Traverse Route」の価値を紹介する。

○宿泊施設や飲食店、土産物店等でお客様と接する方　地域の価値を伝える

・自身の宿や店で提供する商品等について、本ストーリー集を参考にストーリーをもって説明、販売することで、「ここならではの価値」のある商品として来訪者の購買意欲を高める。

・自身の宿や店で利用者から地域や商品等について質問を受けた際、本ストーリー集を参考に「ここならではの価値」を紹介する。

・本ストーリー集掲載のカードの内容をそのまま伝えるだけでなく、地元で働く人ならではの視点を盛り込みながら、適宜アレンジして伝えることで、「ここでしかできない体験」を提供する。

○メディアの方　地域の価値を伝える

・本ストーリー集を参考に「ここならではの価値」を全国・世界へ発信する。

・本ストーリー集を活用した取組を進めている行政関係者や観光協会事務局等に取材をすることで、中部山岳国立公園南部地域における「松本高山 Big Bridge 構想」の実現に向けた動きを発信する。

本ストーリー集の構成は以下の図のとおりです。

「望ましい体験」は、このエリアの特徴的な自然・文化等の魅力に触れ、このエリアだからこそ体験しておくべき、このエリアならではの体験を、想定する旅行者像ごとに整理したものです。このエリアならではの体験ごとにストーリーと資源の解説がまとめられた「カード」が、このエリアを特徴づける資源の種類に応じた「カテゴリー」で分けられ整理されています。

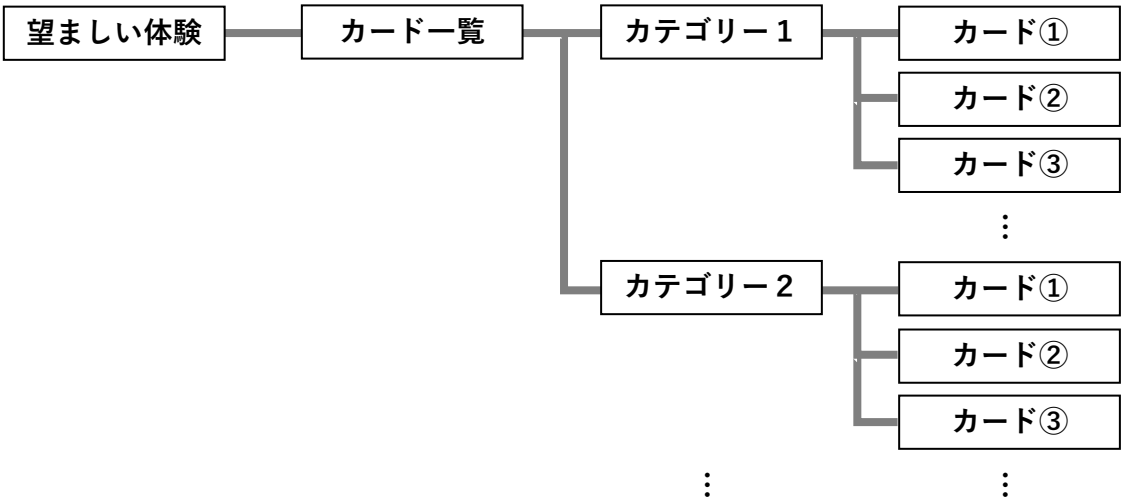


図　ストーリー集の構成

「カード一覧」には、各カードの体験を４つに分けた「ジャンル」と、旅の趣向により６つに分けた「旅行者分類」との対応を整理しています（各類型の定義はカード一覧の凡例をご覧ください）。

ジャンルや旅行者分類は、旅行のテーマやターゲットにあわせて、カードに示した体験や資源のストーリーを組み合わせた旅づくりを考える際の参考として活用することを想定しています。

カテゴリー	番号	カード	ジャンル	旅行者分類					
				ST	RV	WB	ET	FR	SI
長い歴史・文化を持つ白い湯の湯治場	1-①	600 年以上ものあいだ各時代の人々に愛されてきた秘湯	WS	●	●	●	●	●	●
	1-②	白さの素が消化器官系に及ぼす影響と科学的な裏付け	WS	●	●	●	●	●	●
	1-③	湯治客に寄り添い、心身の健康を支えた温泉	WS	●		●	●	●	●
	1-④	登山客を癒す白骨の温泉宿	WS			●			
	1-⑤	「鎌倉街道」の中継宿泊地としての白骨	CA				●		●
石灰岩地が生み出した白骨温泉特有の白い湯と特異な環	2-①	白い湯が創り出した特別天然記念物	NE				●		●
	2-②	10 種類を超える源泉と宿ごとに異なる「湯号」	CA	●	●	●	●	●	●
	2-③	乳白色の湯にその名が由来する白骨（白船）温泉	NE	●		●	●		●

図　カード一覧の例

各カードの構成は以下のとおりです。

カード名は、ここならではの価値やストーリーを感じられる資源や体験、背景となる情報を一言で表すタイトルとなっています。

説明文やイラストは、他のエリアや他地域の資源との違い、ここならではの価値やストーリーを表現するように留意して作成しています。

イラストの下部には、説明文の補足として、説明文に出てくる用語の解説や、説明文で紹介した価値やストーリーを実際に体験できる場所・方法等の紹介をしています。説明文のみで足りると判断したものは空欄の場合もあります。

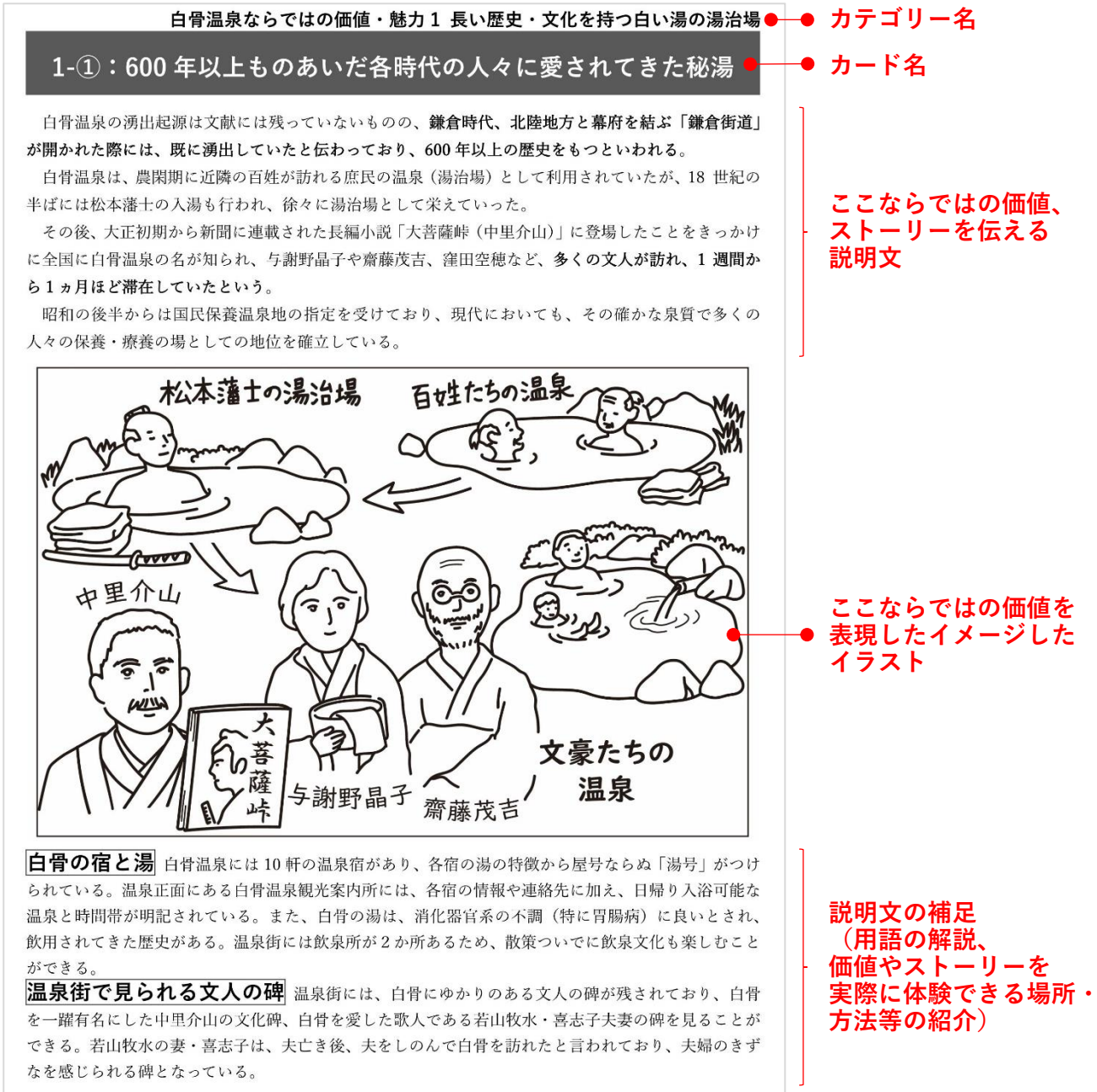


図　カードの例

Ⅱ．白骨温泉の望ましい体験

想定する旅行者像ごとに、白骨温泉エリアの特徴的な自然・文化等の魅力に触れ、白骨温泉だからこそ体験しておくべき、白骨温泉ならではのお薦めの体験は以下のとおりです。

＜子供から大人まで、初心者も上級者も＞

○白骨温泉の特徴的な湯を楽しみ、秘湯の雰囲気にひたることを楽しむ。

○文人に「五彩絢爛たる絶景」とうたわれた自然を感じる。

○1 本道を通って山深い温泉地に入り、歴史ある和の空間（宿）に身を置くことで、非日常を味わう。

○浴衣で温泉街をそぞろ歩き、隧通しなどの自然美を楽しんだ後、温泉に浸かり、温泉粥を食し、全身で白骨温泉に触れる。

＜温泉地の雰囲気を味わいたい方＞

○温泉体験、温泉粥、地の食事（とうじ蕎麦、山菜など）を日帰りで気楽に楽しみ、次は宿泊しながらゆっくりと白骨温泉を満喫する。

○上高地や乗鞍岳など、周辺観光・登山利用の拠点として利用する。天候によって観光・登山が難しくても、温泉や周辺の自然散策でゆっくりとした時間を楽しむ。

＜日本の文化に興味関心がある方＞

○ガイドツアーに参加して地域と湯治の歴史（石灰岩地形との関係、白い湯の謂れ、温泉街の雰囲気づくり等）を学び、宿では湯の入り方の説明等を学んでから湯に浸かることで、湯治文化を深く理解する。

＜癒しと健康を求める人＞

○湯の入り方、不調に合わせた飲泉方法などを地域の方々とのふれあいの中から教えてもらい、湯治を体感する。

○宿泊施設や飲食店で、健康に良い食事や地の食材を用いた食事に舌鼓を打ち、地元食材をお土産として購入したり、飲泉所の湯を持ち帰って帰宅後も白骨に浸る。

○かつての湯治客のように長期で滞在し、体調に合わせた入湯・飲泉やプチ断食など、体の内側からの健康を意識した宿泊体験により心身を回復する。

○自然の中で幅広い運動強度（温泉めぐり、温泉街散策・ウォーキング、十石山登山、見晴らし峠を通って乗鞍高原へのトレッキング）等のアクティビティを選択して楽しみながら健康になる。

Ⅲ．白骨温泉ならではの体験ストーリー

＜カード一覧＞

カテゴリー	番号	カード	ジャンル	旅行者分類					
				ST	RV	WB	ET	FR	SI
長い歴史・文化を持つ白い湯の湯治場	1-①	600 年以上ものあいだ各時代の人々に愛されてきた秘湯	WS	●	●	●	●	●	●
	1-②	白さの素が消化器官系に及ぼす影響と科学的な裏付け	WS	●	●	●	●	●	●
	1-③	湯治客に寄り添い、心身の健康を支えた温泉	WS	●		●	●	●	●
	1-④	登山客を癒す白骨の温泉宿	WS			●			
	1-⑤	「鎌倉街道」の中継宿泊地としての白骨	CA				●		●
石灰岩地が生み出した白骨温泉特有の白い湯と特異な環境	2-①	白い湯が創り出した特別天然記念物	NE				●		●
	2-②	10 種類を超える源泉と宿ごとに異なる「湯号」	CA	●	●	●	●	●	●
	2-③	乳白色の湯にその名が由来する白骨（白船）温泉	NE	●		●	●		●
	2-④	石灰岩地が生み出した自然美と湯治文化	NE				●	●	●
秘湯の温泉街の雰囲気作り	3-①	明治から続く「温泉旅館」としての矜持とおもてなしの意識	CA		●		●	●	●
	3-②	江戸～明治期に培われた白骨温泉の経営ノウハウ	CA				●		
	3-③	地域で作ってきた秘湯への”道”	CA				●		

■ジャンルの軸

・Nature&Ecosystem&Conservation（NE）…自然探勝、動植物観察、マイカー規制など自然と人の共生に係る保全の取組など
・Culture&Art（CA）…食文化、生活などの異文化体験、伝統工芸や芸術作品等の鑑賞、歴史探勝、地域の歴史や文化を守るための取組など
・Wellness&Spiritual（WS）…温泉、リトリート体験、リフレッシュなど
・Sports&Activity（SA）…登山、ロングトレイル、スキー、キャンプなど

■旅行者分類

・Sightseeing Tourist（ST）…有名観光地を巡る一般的な旅行者。色々な国や地域に行ってみたい層。
・Resort Vacationer（RV）…海山川などのリゾート地を目指すバケーション旅行者。
・Wander Backpacker（WB）…世界中を放浪するバックパッカー旅行者。
・Educated Traveller（ET）…異文化好奇心を持つ旅慣れた知的旅行者。
・FR Visitor（FR）…南部地域のリピーター、親戚や友人等の訪問を目的とする VFR 旅行者。
・Special Interest Hunter（SI）…特定の趣味を旅の主目的とする旅行者。

白骨温泉ならではの価値・魅力 1
長い歴史・文化を持つ白い湯の湯治場

白骨温泉の開湯の起源は定かではないが、鎌倉時代には既に湧出していたと伝わっており、600年以上の歴史を持つと言われている。北陸から向かった武士や旅人、農閑期の百姓、保養に来た文人墨客、修験者、登山客など、その白い湯が何百年にもわたって人々を癒し、清め続けてきた。科学的にも裏付けられた消化器官系への効果は、「入って良し、飲んで良し」の湯治場として栄えてきた白骨が、長く愛されてきた温泉の質を証明している。

1-①：600 年以上ものあいだ各時代の人々に愛されてきた秘湯

1-②：白さの素が消化器官系に及ぼす影響と科学的な裏付け

1-③：湯治客に寄り添い、心身の健康を支えた温泉

1-④：登山客を癒す白骨の温泉宿

1-⑤：「鎌倉街道」の中継宿泊地としての白骨

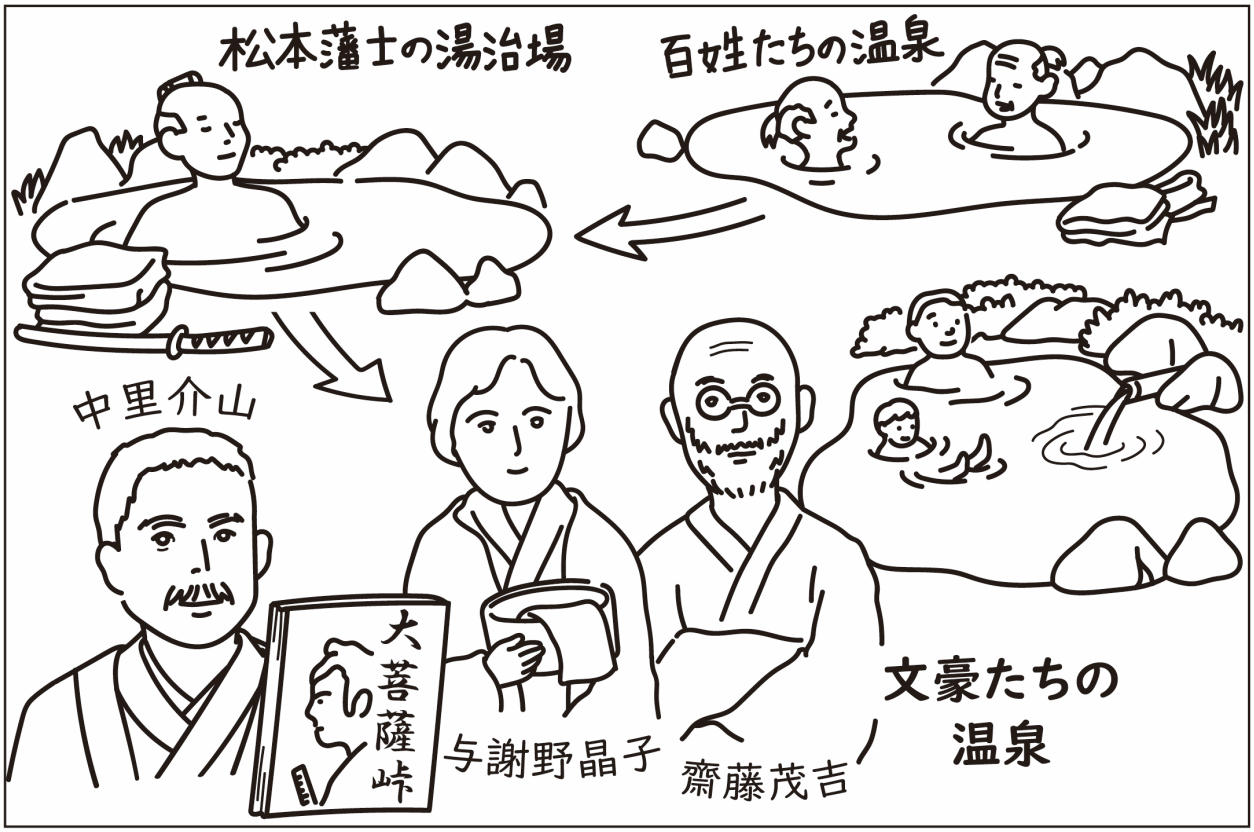
1-①：600 年以上ものあいだ各時代の人々に愛されてきた秘湯

白骨温泉の湧出起源は文献には残っていないものの、**鎌倉時代、北陸地方と幕府を結ぶ「鎌倉街道」が開かれた際には、既に湧出していたと伝わっており、600 年以上の歴史をもつといわれる。**

白骨温泉は、農閑期に近隣の百姓が訪れる庶民の温泉（湯治場）として利用されていたが、18 世紀の半ばには松本藩士の入湯も行われ、徐々に湯治場として栄えていった。

その後、大正初期から新聞に連載された長編小説「大菩薩峠（中里介山）」に登場したことをきっかけに全国に白骨温泉の名が知られ、与謝野晶子や齋藤茂吉、窪田空穂など、**多くの文人が訪れ、1 週間から 1 ヵ月ほど滞在していたという。**

昭和の後半からは国民保養温泉地の指定を受けており、現代においても、その確かな泉質で多くの人々の保養・療養の場としての地位を確立している。



白骨の宿と湯 白骨温泉には 10 軒の温泉宿があり、各宿の湯の特徴から屋号ならぬ「湯号」がつけられている。温泉正面にある白骨温泉観光案内所には、各宿の情報や連絡先に加え、日帰り入浴可能な温泉と時間帯が明記されている。また、白骨の湯は、消化器官系の不調（特に胃腸病）に良いとされ、飲用されてきた歴史がある。温泉街には飲泉所が 2 か所あるため、散策ついでに飲泉文化も楽しむことができる。

温泉街で見られる文人の碑 温泉街には、白骨にゆかりのある文人の碑が残されており、白骨を一躍有名にした中里介山の文化碑、白骨を愛した歌人である若山牧水・喜志子夫妻の碑を見ることができる。若山牧水の妻・喜志子は、夫亡き後、夫をしのんで白骨を訪れたと言われており、夫婦のきずなを感じられる碑となっている。

1-②：白さの素が消化器官系に及ぼす影響と科学的な裏付け

湯治場として有名な白骨温泉には、昔から「３日入れば３年風邪を引かない」という言い伝えがあり、その湯は特に消化器官系の働きを活発にし、胃腸病に効果があると言われてきた。

湯に浸かるだけではなく、飲泉も効果があるとされていたことから、昭和 27（1952）年に**信州大学医学部によって、白骨温泉の湯を飲泉した被験者の胃液調査が行われ、科学的に温泉の効果が検証された。その結果、胃腸病に対して効果があること、また、源泉の違いによって異なる効果が確認された。この成果をもとに、論文として、入浴・飲泉の指針がまとめられている。**

論文によれば、胃酸過多症（むかつき、吐き気等）には元湯・新湯・大石湯・柳湯を源泉とする湯を温かいままで、胃酸減少症（胃もたれ等）には泡の湯を源泉とする湯を少量飲用すると良いとされている。

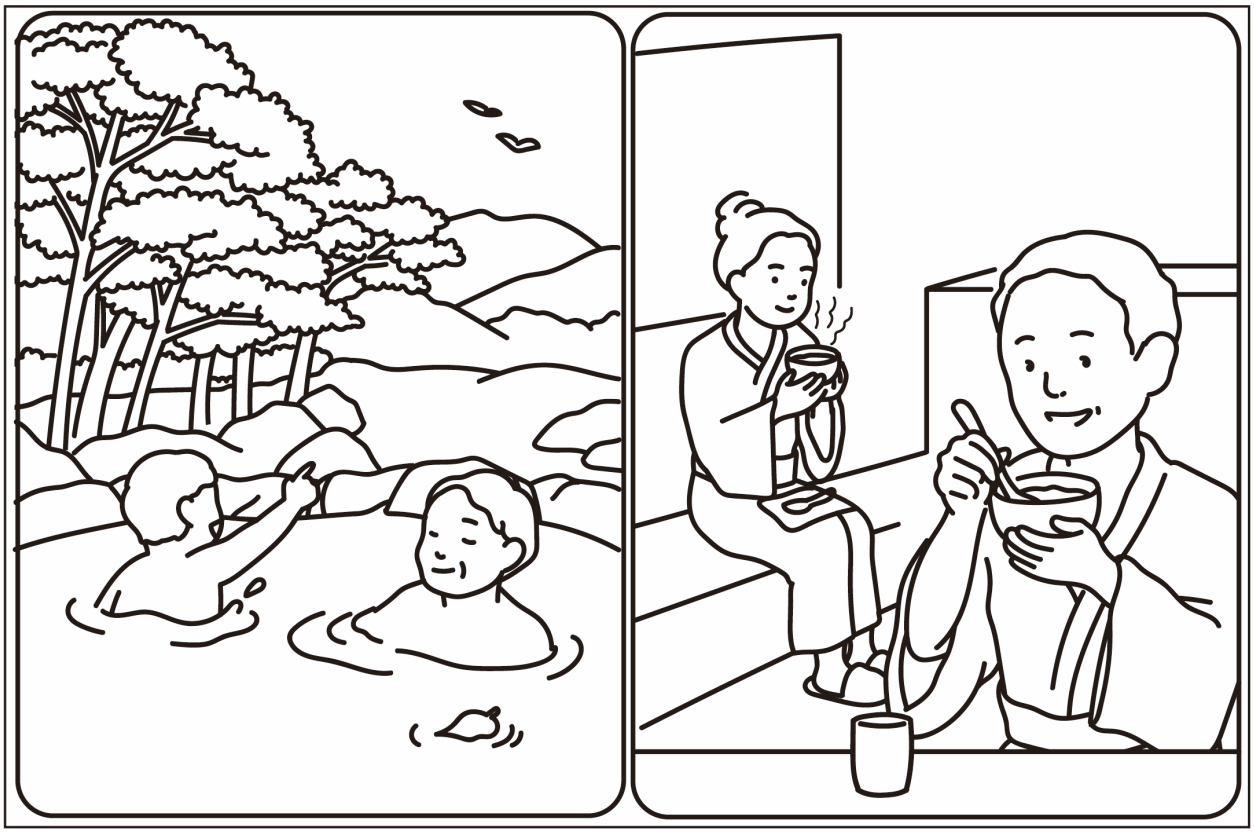
薬師堂（医王殿） 温泉街の一角にある薬師堂は（別名：医王殿）、病気やケガ、貧困をしりぞけて延命を導くといわれる薬師如来像を本尊としており、元禄 15（1702）年に建立された。薬師如来は医王如来、医王仏とも呼ばれ、人々が健康を祈願する仏界の名医とも伝わっており、地域では「お薬師様」と親しまれ信仰され続けている。白骨温泉では湯の成分である硫黄と医療の王様をかけ、「医王殿」とも呼ばれており、古くから湯治場として栄えた白骨温泉らしい呼び名といえる。

1-③：湯治客に寄り添い、心身の健康を支えた温泉

現在は国民保養温泉地として有名な白骨温泉だが、**かつては農閑期に近隣の百姓が米や味噌を持参して滞在し、自炊をしながら休む場（湯治場）として利用されていた**。明治から大正の初めころにあった４軒程の宿は、浴場が梯子で行き来できるようになっており、客の好みで湯の違いを楽しむことができたようだ。

保養・療養目的で訪れる人々は食が細いことも多かったようで、胃腸にやさしい食事を要望した湯治客のため、温泉で粥を炊いたのがこの地で有名な「温泉粥」の始まりである。

心身の癒しを求めてやってきた人々が、浸かり、食し、余すことなく白骨の湯を堪能していたことがうかがえる。



温泉粥 各宿では、それぞれの宿の特徴ある湯で炊いた温泉粥が食べられる食事プランが用意されている。かつての湯治客のように、ゆっくりと白濁の湯に浸かり、温泉粥を堪能することで、心と身体を芯から癒す体験ができる。

1-④：登山客を癒す白骨の温泉宿

昭和に入り、**学校登山が人気となるころには、**松本平の各地から子ども達が食糧持参で宿泊し、**乗鞍岳登山が行われていたよう**だ。

近年では、白骨温泉を拠点とした十石岳登山が人気であり、「鎌倉街道」のルートを辿り大野川（乗鞍高原）へのロマンあふれるトレッキングも行われている。

事前に英気を養い、事後には疲労回復が期待できる温泉を持つ白骨は、登山前後に利用することでより充実したレクリエーションを楽しめる。

乗鞍岳 標高 3,026m の主峰剣ヶ峰をはじめ、朝日岳、富士見岳、摩利支天岳など 2,500m を超える頂が多数連なる山の総称。白骨温泉からはトレッキング（約２時間半）とバス（約 50 分、山頂方面の運賃には乗鞍岳自動車利用適正化協力金が含まれる）を利用することでアクセスできる。上高地乗鞍スーパー林道（バスが通るため通行注意）を道標まで進み、ここから見晴峠を通る登山道に進む。登山道の先にある乗鞍観光センター（乗鞍高原内バス停）からバスに乗車することで、標高 3,000ｍに簡単に到達することができる。条件が揃えば、神の鳥「ライチョウ」にも出会うことができるほか、高山植物や湖沼など、高標高域の景観を楽しむことができる。

十石岳 標高 2,525m の十石岳は白骨温泉から日帰り（約７時間）で挑戦することができる。ナラ・ブナ・シラカバといった広葉樹林、カラマツ林、クマザサ、ツガ・シラビソなどの亜高山帯植物など、歩みを進めるたびに植生の変化を楽しむことができる。森林限界（森林が成立できなくなる標高）を超えると、北アルプスを眺望できる。

1-⑤：「鎌倉街道」の中継宿泊地としての白骨

北陸地方と幕府を結ぶ「鎌倉街道」のルートには、白骨が含まれていたと考えられている。

Ｖ字渓谷に道を作りづらかったことや人家を縫って作る必要があったことから、梓川沿いを避けて山中に入るこのルートが作られたとも言われている。

アップダウンは激しいものの、うまく豪雪地帯を避けており、山の鞍部やなだらかな中腹を経る道は傷みも少なかったと考えられる。

鎌倉街道 大野川・沢渡・白骨から安房峠付近を越え、飛騨・平湯を経て、越中に至る道を古くから「鎌倉街道」と呼んできた。江戸時代以降、昭和 27（1952）年に白骨温泉にバスが開通するまで、白骨温泉に向かう湯治客の道でもあったという。現在は、沢渡にある市営第２駐車場から「池尻砦」まで、およそ 2.1km のコースを散策することができる。

白骨温泉ならではの価値・魅力 2
石灰岩地が生み出した白骨温泉特有の白い湯と特異な環境

標高 1,400m にある山奥の秘湯白骨温泉は、何よりもその白い湯が特徴的である。この白い湯は、２億年をかけて熱帯から動いてきたサンゴ礁（石灰岩）が関係しており、石灰岩の成分である炭酸カルシウム（石灰華）に由来する。

石灰岩地の上に立つ白骨温泉一帯には、その特異な環境から、特別天然記念物「白骨温泉の噴湯丘と球状石灰石」の指定や希少な植物も生育している。

2-①：白い湯が創り出した特別天然記念物

2-②：10 種類を超える源泉と宿ごとに異なる「湯号」

2-③：乳白色の湯にその名が由来する白骨（白船）温泉

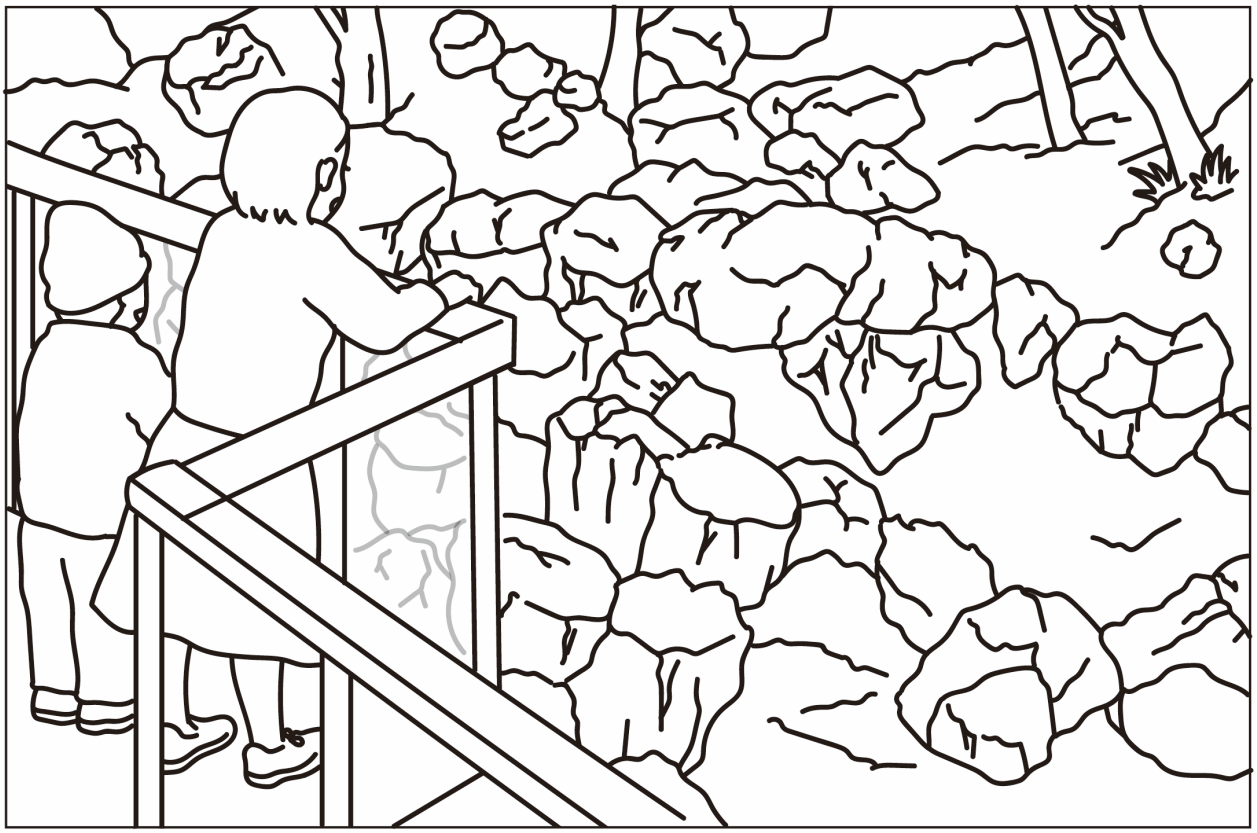
2-④：石灰岩地が生み出した自然美と湯治文化

2-①：白い湯が創り出した特別天然記念物

白骨温泉の白い湯には炭酸カルシウムという成分が含まれている。2 億数千年前、熱帯の海底にあったサンゴ礁（石灰岩）が大陸へと移動し、降雨が浸透する過程で、石灰岩の成分である炭酸カルシウムが地下水に混じり、マグマに温められて「温泉」として地表に湧いて出たのである。

この炭酸カルシウム入り温泉水が地表面に湧き出て堆積した「石灰華」は、白骨温泉一帯で確認されており、約 14.7ha という分布面積は我が**国最大規模**といえる。

石灰華が堆積し続けてできた噴湯丘と、湯だまりの中で回転した石粒が石灰華をまとうことで出来上がる球状石灰石は、学術上貴重な自然現象であり、その希少性から特別天然記念物に指定されている。独特な形状をしたこの球状石灰石は、白骨温泉観光案内所内に展示されているため、実物を観察することができる。



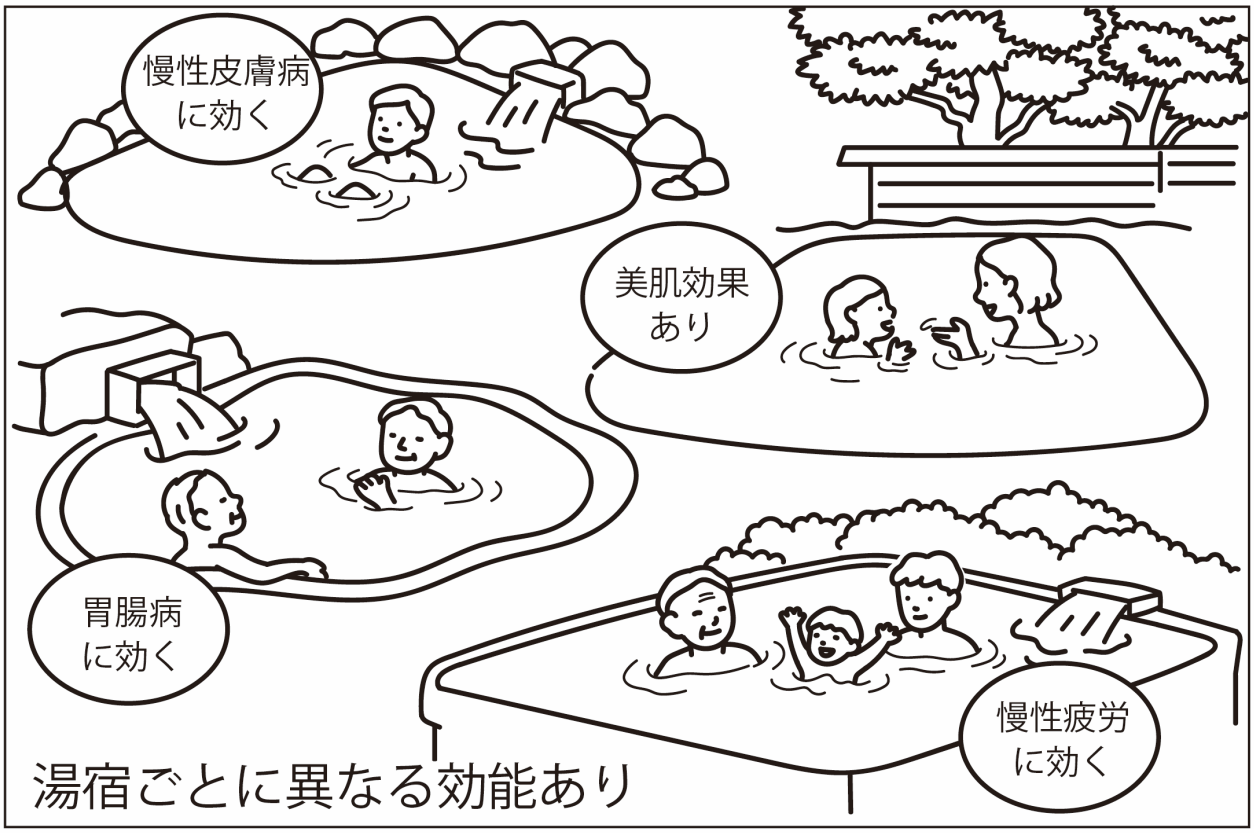
球状石灰石 温泉水の湯だまりの中にあった小さな石粒がお湯の流れで回転することで、炭酸カルシウム（石灰華）をまとい、成長していったものが球状石灰石である。球状石灰石を割ってみると、同心円状の層が確認できる。明治 40（1907）年に白骨温泉の特異な地形地質について初めて報告された佐藤報告（地質学者：佐藤傳蔵氏）では、球状石灰石の成り立ちについて、砂糖液をまといながら大きくなる「金平糖のそれと共通する」と記述されている。球状石灰石は白骨温泉観光案内所で見ることができる。

噴湯丘 「石灰華」は、白骨温泉一帯で確認されており、約 8,000 年前に形成されたれき層の上で石灰華が見られることから、8,000 年前以降に堆積したと考えられている。また、この石灰華が堆積し続けて円錐形となったものは噴湯丘といわれ、国内で天然記念物指定がされている 4 ヶ所の噴湯丘（噴泉塔）のうち、白骨温泉の噴湯丘は「まとまってみられること」が大変貴重とされている。噴湯丘は、白船グランドホテル前の道路右手と（解説の看板が目印）、かつらの湯丸永旅館の裏手の 2 か所で観察できる。

2-②：10 種類を超える源泉と宿ごとに異なる「湯号」

白骨の乳白色の湯の原因は「炭酸カルシウム」にあるが、**白骨温泉の源泉は意外にも無色透明**である。**温泉成分の変化によって乳白色の優しい色合いとなる湯色は、源泉、季節による寒暖差、浴槽、源泉から浴槽までの距離、加温の有無など諸条件によって色彩が変化する**ことから、地域には「湯は生きもの」との言葉が伝わっている。

温泉宿にはそれぞれ自家源泉があり、湯の特徴を捉えた「湯号」がつけられている。各源泉には飲泉許可も出ているため、湯の違い、味の違いを楽しむことができる。



飲泉所 各宿で温泉を飲むことができるが、白骨温泉街にも 2 か所、飲泉所が設置されている。どちらの飲泉所も、噴湯丘（白船グランドホテル前の道路右手と（解説の看板が目印）、かつらの湯丸永旅館の裏手）の近くにあることから、白い湯の成り立ちを観察しながら、飲泉を楽しむことができる。

白骨温泉観光案内所 白骨温泉の正面にある観光案内施設で、白骨温泉の情報をまとめて得ることができる。施設内には、各宿の情報（宿名、湯号、連絡先、宿からの一言）の掲載、特別天然記念物の解説、散策マップや周辺のパンフレットの配架がある。ベンチもあるため、行き先をゆっくり考えることもできる。施設正面には、日帰り入浴可能な温泉と時間帯が明記されているため、白骨温泉に着いた時間によって、日帰り温泉を選ぶことができる。

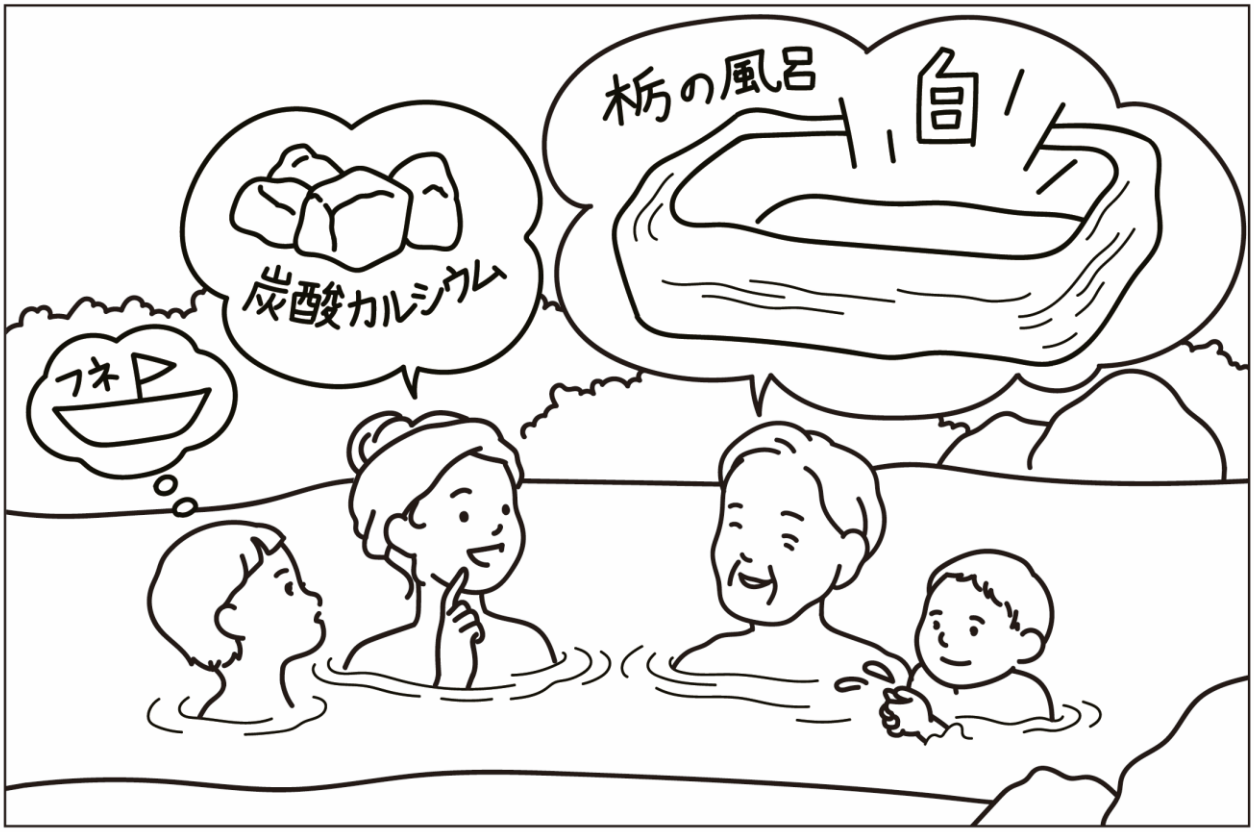
2-③：乳白色の湯にその名が由来する白骨（白船）温泉

白骨温泉の白い湯は、炭酸カルシウムという成分が関係している。

もともと「シラフネ（白舟/白船）」の名で知られていた白骨温泉は、栃の大木をくり抜いて舟（船）の形にしたものを温泉の浴槽として使用し、その中に溜めた温泉の炭酸カルシウム（白い湯の成分）が浴槽の内側に付着した様子が「白舟（船）」に見えた事に由来すると言われている。

「白骨」の名は炭酸カルシウム等の温泉沈殿物が柱状結晶化したものを指しているとされ、いずれの呼び名もその湯の様を表している。

「白骨」の名は、大正２（1913）年から新聞に連載された中里介山の小説「大菩薩峠」で「白骨温泉」として紹介されたことで、「白骨（シラホネ）」として一躍有名となり、今日に至る。



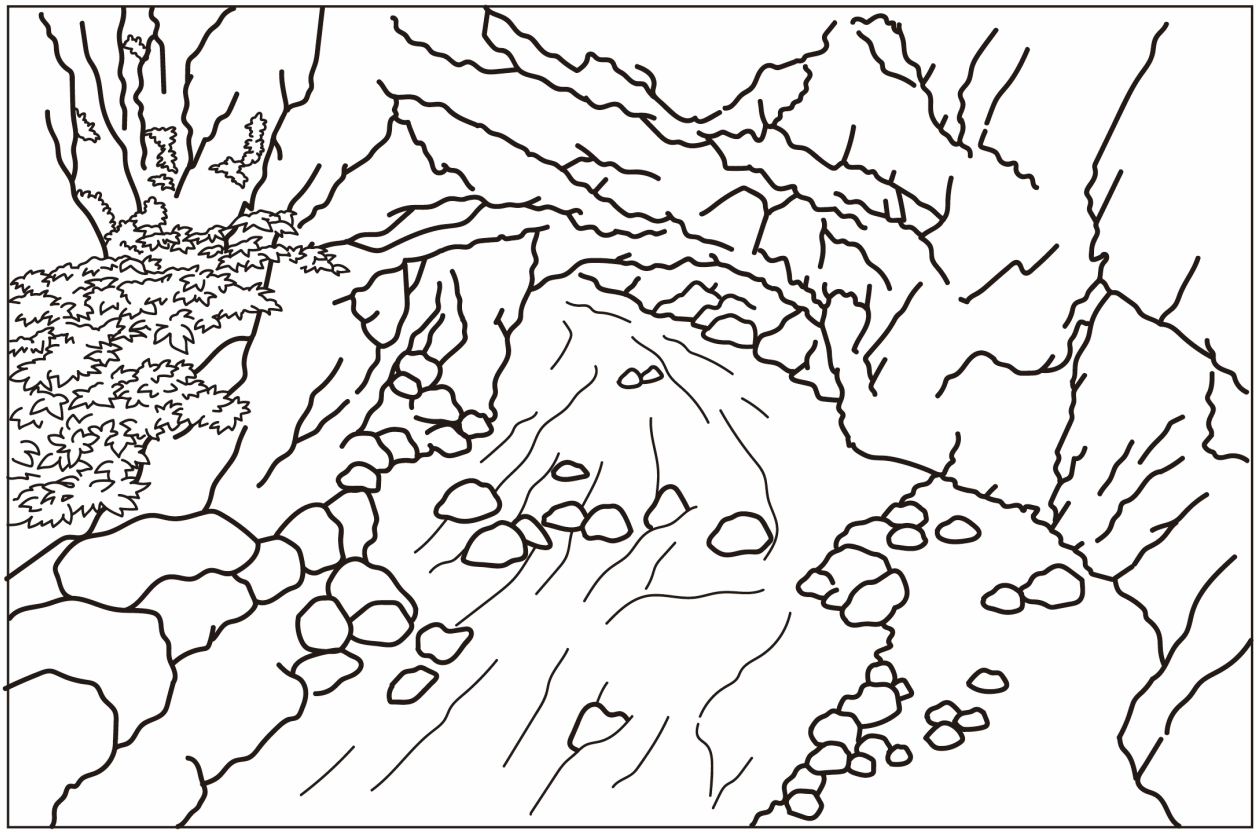
白骨温泉を訪れた文人 白骨温泉の名前を全国に知らしめた連載小説を執筆した中里介山をはじめ、与謝野晶子や齋藤茂吉、窪田空穂など、多くの文人が訪れている。温泉街には中里介山の文化碑、白骨を愛した歌人である若山牧水とその妻・喜志子夫妻の碑も残されている。

2-④：石灰岩地が生み出した自然美と湯治文化

白骨温泉を流れる湯川が石灰岩を浸食したことで形成された自然のトンネル「隧通し」やトンネル出口付近の「冠水渓」、白糸のような「竜神の滝」など、**温泉街を散策することで石灰岩地形によって作られた自然の造形美を楽しむことができる。**

また、標高 1.400ｍの白骨温泉には、森林性動物や亜高山植生が見られるほか、**白い湯の要因である炭酸カルシウムの岩石（石灰岩地）に好んで生育するアオチャセンシダ、イワウサギシダ、トガクシデンダといったシダ類も見られる。**

その他にも温泉街を散策すると、**湯治客の有志が建立したという三十三観音や薬師堂（別名：医王殿）、飲泉所など、温泉街のあちらこちらで湯治文化の痕跡を見ることができる。**



隧通し・冠水渓 白骨温泉観光案内所より徒歩約６分。湯川にかかる吊り橋付近が冠水渓と呼ばれ、渓谷美を見ることができる。橋の上流には巨大な岩をつらぬいて川水が流れる隧通し（湯川の急流が石灰岩を侵食してできた高さ 6m、長さ 20m の自然のトンネル）が見られる。

竜神の滝 観光案内所から沢渡方面への道をすこし下った場所にある滝で、緑の苔の上を滑るように流れる白糸のような流れが美しい。早春には新緑と雪どけのコントラスト、紅葉が散る季節には赤や黄色の鮮やかな景観、１月～２月は氷柱と、四季を通じて様々な滝の姿を見ることができる。

薬師堂（医王殿） 温泉街の一角にある薬師堂は、病気やケガ、貧困をしりぞけて延命を導くといわれる薬師如来像を本尊とし、江戸時代（元禄 15（1702）年）に建立された。白骨温泉では湯の成分である硫黄と医療の王様をかけ、「医王殿」とも呼ばれている。

三十三観音 「三日入れば、三年風邪をひかない」とも伝わる白骨温泉の不思議な効能を体得した、伊那谷（いなだに）・三河（みかわ）・飛騨（ひだ）などの湯治客の有志が江戸時代に建立したと伝わる三十三体の観音さま。白骨温泉観光案内所から徒歩約３分。

白骨温泉ならではの価値・魅力 3
秘湯の温泉街の雰囲気作り

600 年以上も前から人々を癒してきた歴史ある白骨温泉。今日の”秘湯”の雰囲気作りには、インフラ整備から経営まで、地域の苦労と思いが積み重なっている。長い歴史と白骨温泉の魅力を後世に残すため、現在も地域による温泉街づくりは続いている。

3-①：明治から続く「温泉旅館」としての矜持とおもてなしの意識

3-②：江戸～明治期に培われた白骨温泉の経営ノウハウ

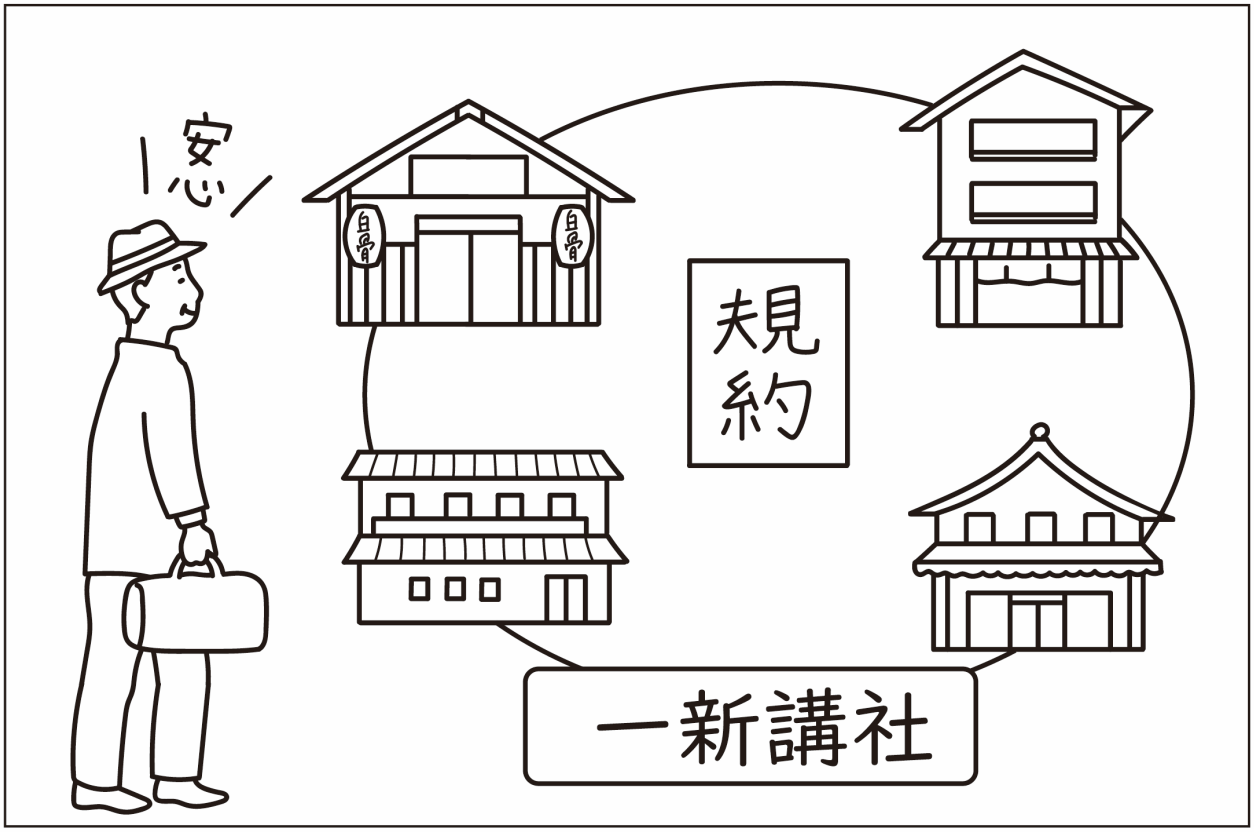
3-③：地域で作ってきた秘湯への”道”

3-①：明治から続く「温泉旅館」としての矜持とおもてなしの意識

ウォルター・ウェストンが来訪した**明治の頃、白骨温泉は近隣の百姓を主な利用客とした山奥の温泉地だったが、「一新講社」の看板が掲げられている旅館があった。**

「一新講社」とは、明治 6（1873）年に静岡で組織された旅館組合であり、加入した旅館は相互に連絡を取りながら規約を守ってお客に安心して泊まってもらうよう努力する組織であったという。

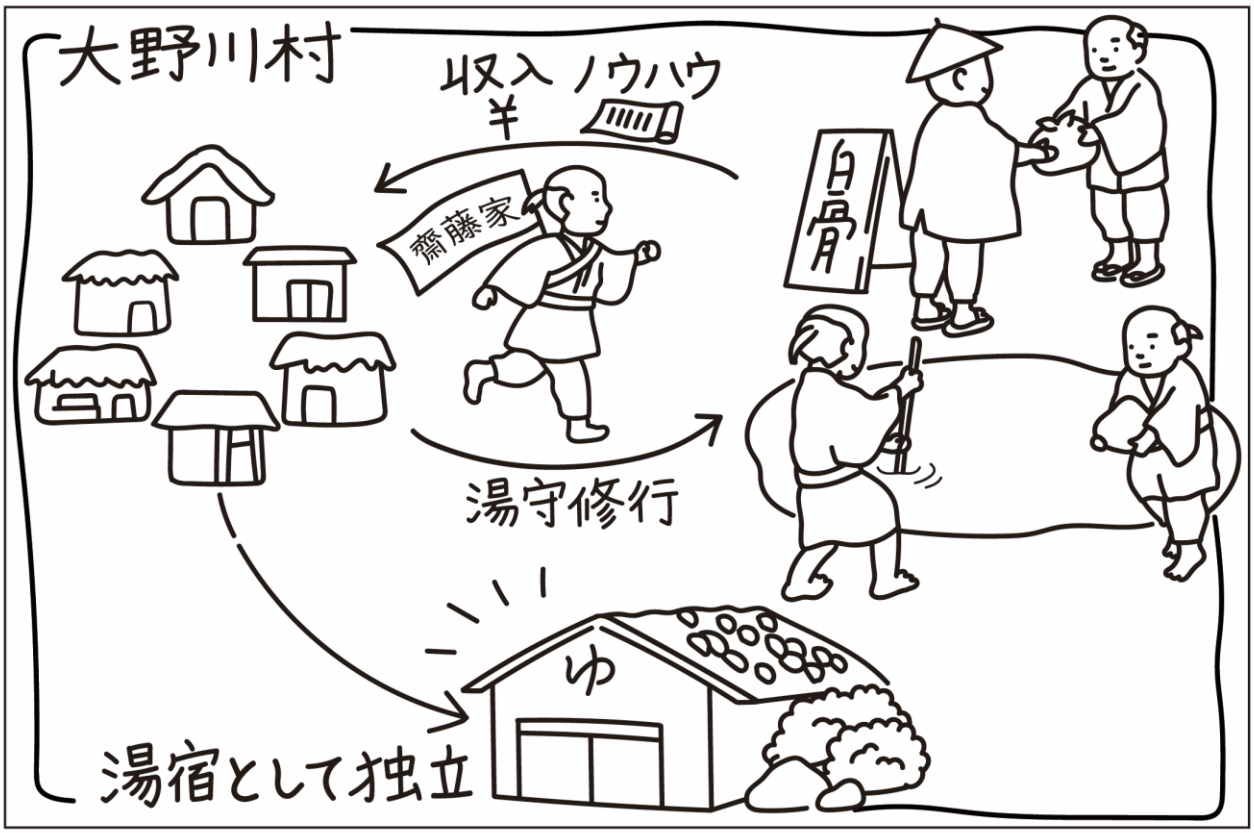
山奥にある小さな宿でありつつも、明治の頃から様々なお客を相手にする「旅館」としての高い意識がうかがえる。



ウォルター・ウェストン 日本近代登山の父。登山家として日本各地の名峰を制覇。明治 24（1891）年には上高地にも訪れており、山案内人・上條嘉門次とともに北アルプスに挑戦している。ウェストンは明治 26（1893）年の夏に平湯から安房峠を越えて白骨にたどり着いている。このときの道中が記されている紀行「日本アルプス登山と探検」で白骨温泉は、「この場所は全く世に知られていない処だが、四十五人の田舎の人たちが病気療養に効くこの温泉にはいりに毎年の夏此処に来て、山中の画のような山小屋に身を休めるのである」と記されている。

3-②：江戸～明治期に培われた白骨温泉の経営ノウハウ

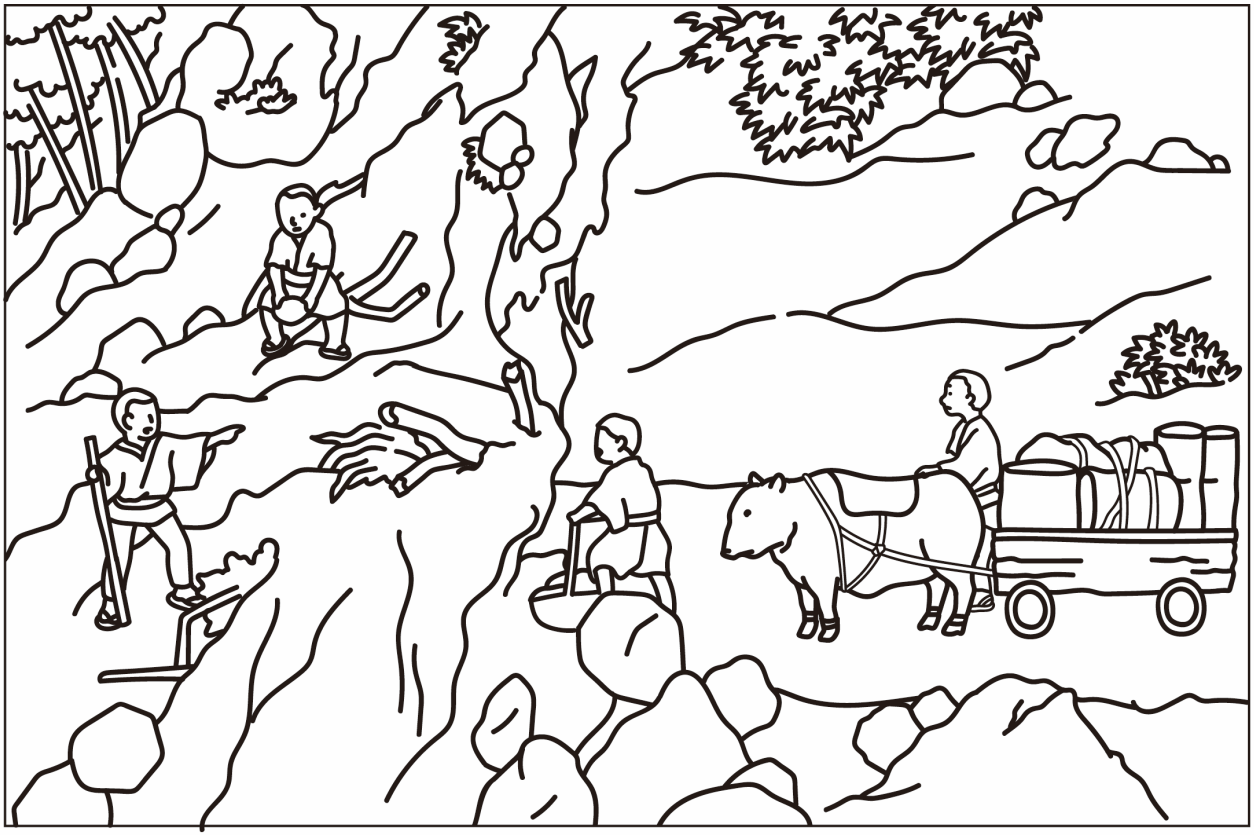
江戸時代、白骨は大野川村（後の安曇村、現松本市）にあった。大野川村は松本藩の御用杣で、木材を切り出して村の生活を営んでいたが、村の財政や村人の生活は苦しかった。そこで、**大野川村の庄屋であった齋藤家（湯元斎藤旅館の先祖）は、夏場に大野川村から白骨へと湯守（温泉の管理人）に行くことで収入を得る生活を始め、白骨温泉経営によって村の財政に大きく貢献**した。明治期に白骨温泉にあった５軒ほどの浴場のうち、２軒が齋藤家、３軒が大野川村の所有であり、村が村営湯屋（温泉旅館）を一般人に貸し与えるようになった。賃貸契約期間中、家守（温泉旅館の賃借人）は資金を貯め実務経験を積み、新規事業を始める準備ができる仕組みがあったことで、契約終了後に独立した宿もあったという。**湯元斎藤旅館をはじめ、明治期に独立した宿も現在まで経営を続けており、10 軒あるそれぞれの宿に歴史的価値がある**温泉地といえる。



御用杣 江戸時代の大野川村は松本藩の重要な木材産地であり、御用杣として材木の切り出しを行っていた。明治時代に松本藩の藩有林が官有林となり、御用杣としての特権がなくなった。

3-③：地域で作ってきた秘湯への”道”

山奥にある白骨では、食べ物をはじめとして、様々な物資を松本や中継地点の稲核（いねこき）まで牛・馬で頻繁に行き来し、運搬してくる必要があった。木曽からは、醤油や石油、樽詰めの黒砂糖なども牛の背に乗って運ばれてきた。**ライフラインであるその道は、雨期の崩落のたび、地域の自費・自力も投入して補修を行っていた。その後、足で旅する時代が終わり、上高地の発展も相まって、関東・中京・関西から四季にわたって利用客がやってくるようになると、旅館の数も急激に増え、林道安曇奈川線も出来上がり、現在の姿へと変わっていった。**白骨温泉には、地域の手で「道」を維持し、今日の基礎を作り上げてきた歴史がある。



白骨温泉まちづくり委員会事業推進計画 白骨温泉まちづくり委員会では、温泉街のこれからについて事業推進計画としてまとめている。「いつまでも変わらない自然回帰の湯・白骨」をビジョンに掲げ、自然とともに営んできた地域の方々の思いを具現化する取組が続いている。

Kita Alps Traverse Route

「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集　-白骨温泉エリア編-
2025 年 3 月
環境省信越自然環境事務所 中部山岳国立公園管理事務所
〒390-1501 長野県松本市安曇 124-7
TEL　0263-94-2024
FAX　0263-94-2651